

令和4年度 読書推進フォーラム

だから読書はおもしろい！

～読書を通して育む「ことば」の力～

報告書



概要

令和4年度 読書推進フォーラム

1 テーマ

「だから読書はおもしろい！ ～読書を通して育む『ことば』の力～」

2 趣旨

県民が読書の楽しさや素晴らしさを実感するとともに、地域全体で読書を通して育む『ことば』の力について考える機会をつくる。

3 主催

和歌山県教育委員会

4 対象

本や読書に興味のある方

5 日時及び会場

日時 令和4年9月25日(日) 13:30～16:40

会場 新宮市文化複合施設「丹鶴ホール」 文化ホール

〒647-0011 新宮市下本町二丁目2番地の1 (TEL:0735-29-7223)

6 申込者数 168名

7 日程

- (1) 講演 「絵本でこどもたちに伝えたいこと」
講師 絵本作家 長谷川 義史 氏
- (2) アトラクション 朗読劇「鳩ぼっぼ誕生秘話 ～東くめと基吉 夫唱婦随の大仕事～」
出演 一般社団法人 熊野新宮ミュージアムのみなさん
- (3) シンポジウム 「ことばの力で想像力を ～読書のむこうでみんなとつながる～」
コーディネーター 佐藤春夫記念館 館長 辻本 雄一 氏
シンポジスト 那智勝浦町絵本の会「よむよむ」代表 伊藤 松枝 氏
「Youth Library えんがわ」留守番係 並河 哲次 氏
元新宮市立図書館司書 山崎 泰 氏

13:00	13:30	13:40	15:00	15:10	15:30	16:35	16:40
受付	開会	講演	休憩	アトラクション	シンポジウム	閉会	

開会あいさつ

和歌山県教育庁 紀南教育事務所 所長 大堀 和美

みなさん、こんにちは。

暑かった夏もいよいよ終わりを告げて、空を見上げれば、うろこ雲やいわし雲がたなびき、夜、耳をすませば虫の声に気づくなど、季節は秋へと移り変わってきました。

秋といえば、芸術の秋、スポーツの秋、実りの秋。そして読書の秋もその一つです。読書の秋を迎えるにあたり、ぴったりのフォーラムを企画しました。新型コロナウイルスの感染拡大状況もここにきて収束傾向となり、対策を十分に講じた上で、本日の会を迎えることができましたこと、そしてたくさんの人にお集まりいただけたことを大変うれしく思います。



読書活動は、ことばを学ぶだけではなく、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにします。そして私たちがより良く、より深く生きていくために欠かすことができないことだと考えています。しかしながら、子供たちの学習状況の調査結果を見ますと、読書をしていない和歌山県の子供たちの割合が全国より高くなっており、深刻な課題だと受け止めています。また、学校関係者や地域の方とお話をする中でも、和歌山県は子供の読書だけでなく、大人の読書の時間も少ないのではないかという声も聞きます。

和歌山県教育委員会では、子供から大人まで、読書の楽しさや素晴らしさを実感できるように、「読書を楽しむ習慣づくり」事業として、さまざまな取組を行っています。本日の読書推進フォーラムもその一つであり、家庭、学校を含む地域全体で、読書について考えていただく機会として実施しています。

本日は絵本作家の長谷川義史先生に、「絵本でこどもたちに伝えたいこと」と題して、ご講演いただきます。本日は絵本ライブも行っていたらということで、皆さんと一緒に読書の面白さについて考えたいと思っています。

また、ご講演の他にも「熊野新宮ミュージアム」の皆さんによる朗読劇のアトラクションや、紀南地方を中心に活躍されている方々にご登壇いただき、貴重なご経験をもとに、様々な角度からご意見やご提案をいただくシンポジウムなど、様々なプログラムを用意しています。

本日のフォーラムが、皆様方にとって実り多いものになり、それぞれのお立場で読書の楽しさや素晴らしさを伝えていただくことで、和歌山県の各地域で読書活動がより一層推進されることを祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

約3時間のプログラムになっております。どうぞお楽しみください。

講演

「絵本で子どもたちに伝えたいこと」

絵本作家 長谷川 義史 氏

【挨拶】

- 和歌山には以前から縁があり、各地で絵本ライブを行ってきた。
- 和歌山の人にはフレンドリー。カメラを向けると、近寄ってきてくれる。今日も、そのような感じで、笑って楽しんでいただければうれしい。



【絵本ライブ】

『たこやきのたこさぶろう』（小学館） 作：長谷川 義史

子供から大人まで、みんなが大好きなたこ焼き。もし、たこ焼きがお話をしたら、きつとこんなことを話しているんじゃないでしょうか。

絵本ライブの1冊目は、『たこやきのたこさぶろう』。旅に出ようとするたこさぶろうを止めに入るたこ焼き家族の会話がとてもおもしろい。

長谷川氏の軽妙な語りも相まって、会場は何度も笑い声に包まれていました。絵本の朗読の後は、「たこやきソング」のウクレレの弾き語りがありました。

- 1冊の絵本との出会いがきっかけとなって、絵本が好きになる場合がある。
- 「たこやきのたこさぶろう」に出合ったことがきっかけで、この絵本が好きになり、朗読やその他さまざまな絵本にも興味を上げていった子供がいる。
- 絵本は、お話が読み手に届いた時に、読み手が思いをふくらませ、命が入っていく。

『大阪うまいものうた』（佼成出版社） 作：長谷川 義史

大阪の子供たちの中で広まった遊び歌。そこに長谷川氏がアレンジを加えて、絵本として制作されたのがこの絵本です。

長谷川氏の歌に合わせて、会場の参加者も一緒に手遊びをして楽しみました。

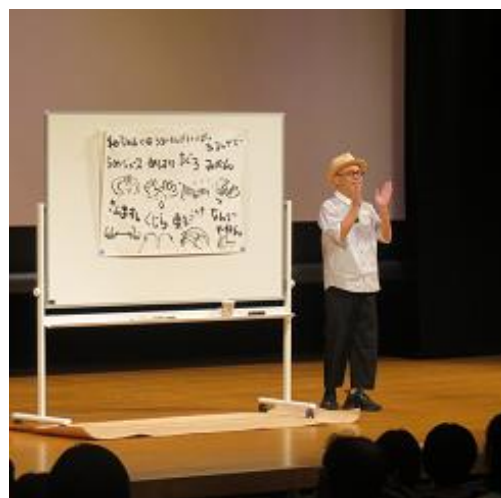
大阪にはたこ焼き以外にもたくさんのおいしいものがあることを再確認しました。

「和歌山うまいものうた」

「大阪うまいものうた」の和歌山版。

ホワイトボードに貼った模造紙に、会場から出された「和歌山のおいしいもの」を、長谷川氏が絵に描いて歌を作りました。

会場からは「梅ジュース」「めはり（寿司）」「まぐろ」「みかん」「さんま寿司」「くじら」など、和歌山のおいしい名物がたくさん出されました。最後は、みんなで楽しく歌いました。



- 自分の住んでいるエリアに絞っておいしいものを出してみるのも楽しい。例えばお肉屋さんのお家の子供がいれば、「〇〇くんの家のコロッケ」などが取り上げられると盛り上がる。
- 絵を描くときは、筆にたっぷり絵の具をつけて、なるべく大きく大らかに、はみだしてもいいように描こうと思っている。

『うなぎにきいて』（童心社） 脚本：桂 文我 絵：長谷川 義史

桂 文我氏が子供たちにも分かるよう脚本にしたものに、長谷川氏が絵を描いた落語紙芝居。

長谷川氏は、筆で絵を描きながら「ライブ紙芝居」をしてくれました。

まるで落語を聞いているかのような楽しい語り口調とユーモラスな絵の世界に参加者は一気に引き込まれ、会場からは何度も笑い声が上がっていました。

- 絵を描きながらお話をすると、子供たちはとても喜ぶ。
- 出来上がりの絵ではなく、絵を描いている過程を見るのはとてもおもしろい。創作意欲がわき、自分の物語を作り、紙芝居などを作り始める子供がいる。
- 絵と同じように、読書についても、大人が本を読んでいるのを見ると、子供も本を読もうという気になるのではないか。

『おへそのあな』（BL 出版） 作：長谷川 義史

命の誕生を楽しく描いた絵本。

長谷川氏は、ご自身の子供の出産の立ち合いや育児経験のお話をたっぷりと織り交ぜながら、読んで聞かせてくれました。赤ちゃんの誕生は、なんてすてきなんでしょう。忘れてしまいがちな大切なこの瞬間を、長谷川氏の読み聞かせで、会場の皆さんと共有することができました。読み聞かせの後も、しばし余韻に浸る参加者の姿がありました。

- 自分の経験を元に、赤ちゃんを迎えるときの待ち遠しい気持ちや、生まれてきた後の家の中の幸せな空気を絵本に描いた。
- 幼い子供たちも喜んで聞いてくれるのは、生まれてきたときの記憶が残っているからではないか、とも思う。

『おかあちゃんがつくったる』（講談社） 作：長谷川 義史

長谷川氏の子供の頃の思い出を描いた絵本。

幼いころに亡くなられたお父さまとの思い出を『てんごくのおとうちゃん』で描いた長谷川氏。その後日談を今度は『おかあちゃんがつくったる』として描きました。

なんでもミシンで作ってくれる、明るくて、優しく、力強いおかあちゃん。おかあちゃんとぼくのやりとりを聞きながら、会場からは何度も笑い声が上がりました。また、思わず涙ぐんでしまうような場面もありました。

- 本当にあった母との思い出。母は今も健在である。今から思えばありがたいが、当時は母の愛情が「難儀だ」と思ったこともあった。
- 小さい頃から絵を描くのが好きで、大人になったら絵描きになりたいと思っていた。最初は仕事がなく、親は心配でたまらなかったと思うが、母は一度も絵を描くのをやめさせようとしたり、非難したりしたことがなかった。子供がやりたいことを、何も言わずに陰ながら辛抱してくれたことが、すごいなと思う。それが、一番の愛情だと

思う。自分が親になってみるとよく分かる。そのようなことは、なかなかできることではない。

- 小さい子供に話をするときには、あちらが本気だから、こちらも本気でやらなければいけない。
- 「聞いてくれる」とか「聞いてくれない」というのは間違い。小さい子供が、「おもしろい」と思うようにやらなければいけない。
- こちらが「おもしろい」と思っている、子供たちがおもしろいと思わなければだめ。それを無理やりやっていたら、子供は本が嫌になる。
- 大人の責任は大きい。子供たちが何を求めているのかを、感性を働かせて読むことが大切。
- 「おもしろくない」と言われたら、こちらのセレクトが良くなかったということ。それは子供たちを甘やかしていることにはならない。子供の気持ちを、大人が察していないということが問題。
- 大人がどのように動けばいいのか、一番教えてくれるのが子供。

『へいわってすてきだね』（ブロンズ新社） 詩：安里 有生 画：長谷川 義史

最後に紹介された絵本は、小さい子供たちに読んでも、最後まで静かに聞くという『へいわってすてきだね』。沖縄の小学校1年生が描いた平和への願いの詩に長谷川氏が絵を描いた絵本です。7年前、沖縄慰霊の日の式典で、安里君はこの詩を朗読しました。

会場は、子供から大人まで、長谷川氏が読む安里君の「ことば」をじっくりと聞いていました。

- 安里君に会いに与那国島まで行った。ご家族もみんなすてきな方だった。安里君に会ったとき、「この子は、このすてきな家族の、この状態のままでもいいんだなあ」と思った。だから平和のことを考えたんだと思う。この詩は、「普通の生活」のことを言っている。
- 「へいわなかぞく」：自分のまわりが平和であってほしい、ということ。
「へいわながっこう」：友達の立場でも、平和でいたいということ。
「へいわなよなぐにじま」：与那国島の人も、ぼくも平和でいたいということ。普通の生活をしていたいということ。
- 「へいわなおきなわ」「へいわなせかい」
「日本」と言わないのは、よその国の人でも平和でいたいはずだから。どこの国の人でもみんな平和でいたいはず、と考えるのが、安里くんの優しい気持ち。優しい気持ち

から平和が生まれるんだと言っている。平和のために「ぼくもできることからがんばるよ」と言ってくれている。

- 子供たちは平和を願っている。大人には、子供たちが生きていく状況をバトンタッチする責任がある、と1年生の男の子のことばが教えてくれている。

【まとめ】

- 絵本は大人もたまに読んでもらいたいもの。みんなで読み合いをしたい。そんなことが普通に行われるようになりたい。今日はそんな趣旨の会ではないかと思う。
- 和歌山でも「本はおもしろいな」ということを少しずつ広めていってほしい。

歌「こどもたち GO」

最後は、「子供たちはすごい力を持っているよ」というメッセージが込められた歌を歌っていただきました。

会場みんなで手拍子を取りながら、歌とウクレレの心地よいメロディーとリズム、そして「ことば」を身体全体で楽しみました。



絵本ライブでは、長谷川氏の生のことばや演奏を通して、豊かな作品の世界を味わうことができました。また、作品に込められた思いをお聞かせいただいたことで、命の誕生や家族のこと、平和についても考える良い機会となりました。

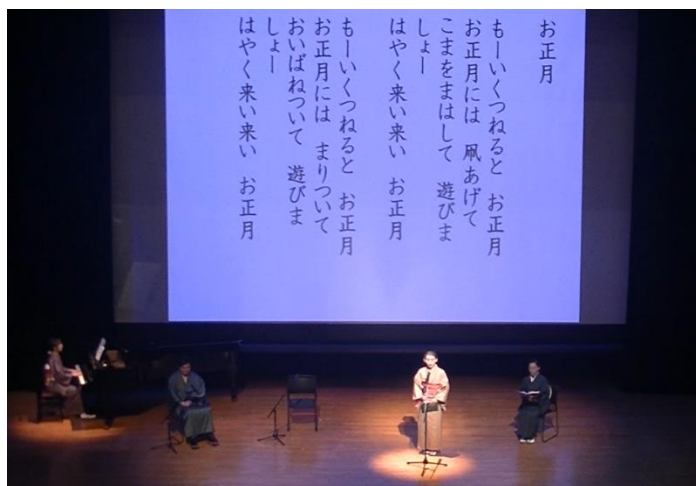
さらに、絵本を子供たちと読むときは、大人の思い込みや押しつけではなく、一緒に子供たちと楽しむことが大切であるということや、作品を創る過程を体験することが子供たちの創作意欲に結び付くというお話からも、子供の心を揺さぶる体験がいかに重要であるかがわかりました。

和歌山県教育委員会では、これからも気軽に本に手を伸ばし、読書を楽しむことができるような環境づくりを進めてまいります。

アトラクション

「鳩ぽっぽ誕生秘話 ～東くめと基吉 夫唱婦隨の大仕事～」

一般社団法人 熊野新宮ミュージアムのみなさん



【朗読劇の内容】

- 現在、新宮市の時報としても流れている「鳩ぽっぽ」。この歌を世に送り出し、日本の音楽の発展に尽くした東くめ。
- くめの夫、基吉も新宮市出身であり、日本の幼児教育の第一人者の一人。
- 日本の幼稚園保育を模索しながらの基吉とくめの共同作業の中で、くめの「鳩ぽっぽ」の歌詞が生まれた。歌詞には、くめの東京音楽学校（現東京芸術大学）時代の後輩だった滝廉太郎が曲をつけて、日本初の口語歌詞童謡「鳩ぽっぽ」が幼稚園唱歌として誕生した。
- 「鳩ぽっぽ」の他にも、くめが作詞し、滝廉太郎が曲をつけたもので有名な曲の一つに「お正月」がある。
- 若さと情熱と先進的な考えで幼稚園保育法を築いていった基吉は、幼児向けのお話を何冊か作った。内容は分かりやすく、子供の言葉で綴られたものだった。
- 二人は5人の子供にも恵まれ、くめは生涯ピアノを教えて暮らした。
- くめは、東京芸術大学の音楽教育功労者表彰、池田市教育文化功労賞を受賞し、新宮市名誉市民にもなっている。

シンポジウム

「言葉の力で想像力を ～読書のむこうでみんなとつながる～」

コーディネーター

辻本 雄一 氏

シンポジスト

伊藤 松枝 氏 並河 哲次 氏 山崎 泰 氏



(1) はじめに

【辻本コーディネーター】



- ユーモアたっぷりで含蓄の深い長谷川先生の講演と東くめさんの朗読劇を引き継いで、プレッシャーを感じる。
- 自己紹介を兼ねてお言葉をいただき、テーマに沿って話を進めていく。

(2) 自己紹介と講演の感想

【伊藤氏】



- 那智勝浦町 絵本の会「よむよむ」読書ボランティア。発足 25 年、現在 6 名で活動中。子供たちやその家族と一緒に絵本や紙芝居、わらべうたなどを楽しんでいる。
- ブックスタート：赤ちゃんと保護者に絵本の楽しさを届ける活動
ブックスタートプラス：今年度から町が始めた 1 歳 6 か月健診時の取組

- 本の世界へ子供たちを連れて行くのは大人の役目。
講演を聞き、絵本や子供の文化は、平和の中でこそ育つ、と改めて感じた。
- 「ブックスタート」の可能性、声としての「ことば」、子供たちへの大人の関わり方について考えたい。



【並河氏】

- 絵本ライブや朗読劇は、音楽や絵で大事なことを伝えている。
- 「Youth Library えんがわ」：子供や若者向けの私設図書館。開館 10 年、約 1,000 冊の本や漫画を所蔵。本を読むほか、ゲームやいたずら、宿題、友達との談笑ができる場。
- 大学時代、「自分がやりたいことをやってみる」と行動し、多くの人に会うことで、悩みから抜け出せた。
- 子供や学生のおかげから「やりたいことをやってみる」「いろいろな人と出会う」経験ができる場所になればと願っている。

【山崎氏】

- 新宮市立図書館で司書として郷土資料を担当した。
- 図書館は①本の貸出、②調査研究を法律に基づいて行う。
- 調査研究＝「調べ学習」
郷土資料を担当し、郷土に関する本・資料を集めて提供していた。
- 今回は、どのように調査研究（調べ学習）を進めていくかについて話したい。



（3）登壇者の読書体験、「ことばの力」と「想像力」について

【辻本コーディネーター】

- 「朝の 10 分間読書」：生徒・先生が朝の 10 分間、黙って本を読む活動。
新宮高校の教員時代に実践した。全国的に広まった運動だが、少しずつしぼんできたという実感がある。
- 今日は「ことば」がテーマである。「ことば」と共に「動作」も必要で、身体を動かすことと表現が一体になっている時代だと感じる。
- ご自身の読書体験から、「ことばの力」や「想像力」についてお話しいただきたい。

【伊藤氏】

<読書活動は、「コミュニケーションの成立」と「他者の存在を知る楽しみ」>

- 読書では、書き手と読み手が「ことば」を通してつながる。

「ことば」をイメージに変えるのが、「ことばの力」であり「想像力」。

<ブックスタートが育む「ことば」の土台>

- ブックスタート：読書が目的ではなく、赤ちゃんと保護者に幸せな時間を届ける活動。

大切な人と同じものを一緒に見る＝心を通わせること

→「ことば」の土台となる。

- 10か月の赤ちゃんは絵本を開くと、指さして保護者をふり返る。

お互いに「通じ合っている」と感じたとき、楽しいと感じる。

<声の文化と文字の文化>

- 「私たち人間の祖先は『ことば』を獲得する前には、『ことば』で説明して伝える力よりも、相手の様子を感じ、受け取る力でコミュニケーションを保っていたのではないかな。なぜなら、ヒトは共同体において一緒に食事や共同保育をする動物だったからである」
(人類学者・霊長類学者 やまぎわ じゅいち 山極 壽一 氏)

- 「ことば」が生まれたのは7万年前。文字が生まれたのは4千年前。

「話す・聞く」が最初であり、「読む・書く」はずっと後のことだった。

声の文化から、文字の文化へと移っていった。

声は「あなたは大切な存在ですよ」というメッセージとなって心の深いところに届く。

<声としての「ことば」>

- 「文字が読めるようになる前に大人が子どもに語るということ。子どもが聞くということの豊かな経験をしないと読書はできなくなる」(編集者・児童文学者 まつい ただし 松居 直 氏)

- 「母親が子どもがまだ物心つかないうちから歌うわらべうた・子守りうたのようなものが一番大切で、児童文学の第一歩。その基本じゃないかと考えている」

(せ た ていじ 瀬田 貞二『幼い子の文学』)

- 口で話し、耳で聞く昔話やわらべうたなどが伝承されにくくなってきた。

「ことば」の危機は心や文化の危機でもある。

- 子供たちは、大切な人から本を読んでもらう時、人物や物事、情景を思い描く。

目には見えないが、心の内側ではさまざまなことが起きている。

【並河氏】

<「図書館」に紐付いた読書体験>

- 小さいころ：母親から読み聞かせをしてもらった。

家族で図書館に通い、好きな本を借りる習慣ができていた。

- 小・中学校：生き物の飼育の仕方等について、図書館で調べた。
- 高校：友達がきっかけとなり、ミステリー小説を図書館で借りて読んだ。
- 大学：自転車で国内・海外を旅し「図書館がオアシスである」ということを知った。
海外では図書館にWi-Fiが整備され、インターネットが使えた。
日本と連絡を取り、くつろぐ場所として図書館を使った。
- 議員時代：旧新宮市立図書館で、資料などを調べさせてもらった。

<読書を通して身につく力>

- 「ことば」は文字よりも強力なイメージとして伝わる。
「ことばの文化」の歴史が圧倒的に長い、と聞いて納得した。
- 読書を通して「ことばの力」や「想像力」が身につけば、生きていく上でのコミュニケーションの力をつけることにつながる。
- 社会の中で生きていくにあたって本は重要。
家庭で本を読む習慣がない、図書館が遠い、経済的に本を買うのが難しいなど、状況に合わせた対応も考える必要がある。

<インターネットでのつながりと時代の変化>

- ひきこもっている子の多くが、部屋にいながら、世界中の人と一緒にオンラインゲームをしている。対戦したり、協力したりするため、翻訳機能のあるチャットで海外の人ともコミュニケーションを取っている。
- 世界中の人と会話をしている彼らに対して、我々がオフラインの世界にひきこもっているのかもしれない。
- 時代が変化し、新しいことが起こっている。自分自身も融合し、混ざり合っていくことが大事だと考えている。

【辻本コーディネーター】

- 新宮市立図書館の郷土資料というのは全国的に見てもレベルが高い。

【山崎氏】

<郷土資料の役割とインターネット情報>

- インターネット上の情報は、調べ学習の「入口」としては良い。
インターネット情報だけでは分からないことを、深掘りしたい、もっと知りたいと思ったとき、郷土資料などの本が役に立つ。
- 新宮市立図書館では市ゆかりの人物の関連資料を収集している。
国会図書館や和歌山県立図書館にもない資料・他では手に入らない非常に貴重な資料など、表に出ていないものもある。

- 1997年、新宮市立図書館発行の「熊野誌」において、新宮女子高等小学校「祝賀歌」（滝廉太郎作曲）の謎について、特集を組んだ。
- 作曲の経緯や曲の情報は、インターネット上にはない。『滝廉太郎作曲全集』にも入っておらず、滝廉太郎記念館（大分県）も把握していなかった。
滝廉太郎ほど有名な人物であっても、情報が出てこないことがある。
本から本へと追いかけていっていった結果、少しずつわかってきた。

（４）「読書のむこうでみんなとつながる」とは

【辻本コーディネーター】

- 「読書のむこうでみんなとつながる」とは、どういうことなのか考えてみたい。

【伊藤氏】

<3つの「つながる」>

- ①子供のときの経験が、大人になったときに「つながる」
 - 「アイデンティティの探求は自分の物語を作ることだ」（心理学者 ^{かわい はやお}河合 隼雄 氏）
人はつまずいたり、悩んだり、どうしてこんなことが起きたのか考えてしまう。
起こったことを自分で受け入れることができるかが鍵になる。
 - 子供たちは、絵本や昔話の物語を自分の中に意味づけをして取り込む力がある。
大人の声で子供たちに物語を語ってやりたい。
- ②紙芝居で場が「つながる」
 - 日本の文化財でもある紙芝居は、子供たちが身を乗り出して楽しむ。
その場が一つになり、つながっていく。
- ③本を開けば、明日に「つながる」
 - 仙台育英高校野球部 ^{すえ わたる}須江 航 監督（今年夏の高校野球優勝校）
野球部生徒に絵本を読み聞かせていた。
「どんな気持ちでいても、どんな人にも必ず朝が訪れ、次の日がやってくる」
（ドリス・シュアーリン『明日はきっと』）
高校球児が日々の努力と様々な葛藤の中で、この絵本を自分の中に落とし込んで、明日はきっと今日より良くなると思ったのかなと考えると胸がいっぱいになる。

<作家が選び抜いた「ことば」>

- 大切な「よむよむ」の仲間と共に、長谷川さんのような素晴らしい作家さんが選び抜いた「ことば」を、心を込めて子供たちに届けていく。
大人の「共読者」としての学びをもっと深めていきたい。

【辻本コーディネーター】

<「ことば」と暴力>

- 「ことば」が通じないときの「暴力」。

「ことば」と「暴力」はこれまで、対立的なものだった。

ところが今は、「ことばの暴力」が、特にインターネットの世界で広がってきている。

- 「ことば」が時には、危険で暴力的な要素を持つことを忘れてはならない。

【並河氏】

<「みんなとつながる」中でのコミュニケーション>

- 現代は、すでに「みんなとつながっている」状態。

インターネットを介して情報がやりとりできること、海外の情勢が日本の物価に影響を与えることも、「つながっている」状態。

善し悪しを別として、否応なくつながっている中で、「ことば」や「コミュニケーション」が大切となる。

- 悪い形で出るのが「ことばの暴力」。人が精神を病んで亡くなってしまうこともある。

- 「ことば」でのコミュニケーションをあきらめてしまうと、分断が起きる。

分断を越えられるのが、「ことば」。

「なぜ、そう考えるのか」「なぜ、そうしたいのか」を話すことが求められる。

分断を生まないための「ことば」のやり取りが重要。

<本と出会う場所で、「みんなとつながる」>

- 「えんがわ」は、ふとしたはずみに本と出会う場所。

子供たちは、いつの間にか本がある場所において、「ことば」を獲得できる。

この流れをさまざまな場所で行うことができればよい。

- 「読書をする人／しない人」の分断を越えて、「読書のむこうでみんなとつながる」コミュニケーションをとることが、平和な状態をつくることにつながる。

【山崎氏】

<本を通して過去の人と「つながる」>

- 一冊の本を読むたびに、一人一人の個性と出会える。過去の人ともつながる。

亡くなった方でも、その人の考えに共感を覚えたり、これは違うと感じたりする。

<多様な考え方と「つながる」読書>

- 読書は「多様性」を育む。

本を読んで、さまざまな考え方や感じ方を知り、自分の中で「多様性」をつくっていく。

- 「多様性」が「ことばの暴力」に抗う一番基本的な部分。
別の考え方を示すための根拠が、読書ではないかと考える。

(5) まとめにかえて

【辻本コーディネーター】

- 「ことばの制圧に、高度な当てこすりやアクロバティックな手法で抵抗してきたのもことばだ。そして、その最終的な挫折をすら、人は後にことばで反芻した。そういうことばの力に、一人一人がそれぞれにまぎれもなく支えられてきた。」
(朝日新聞「折々のことば」から 鷲田 清一 氏)
 - 「私のいう民主主義は、台所に転がっているような民主主義なの。」
(朝日新聞「折々のことば」から 山根 基世 氏)
- 山根氏は元 NHK のアナウンサー。昨年度の読書推進フォーラムで講演された。
- 「ことばの暴力」をどう乗り越えていくか、読書を手がかりに考えていきたい。

【令和4年度 読書推進フォーラム】

だから読書は **おもしろい!**
～読書を通して育む「ことば」の力～

令和4年 9月25日 日
13:30～16:40

新宮市文化複合施設
「丹鶴ホール」
(新宮市下本町二丁目2-1)

入場 無料

講演 絵本作家 **長谷川 義史** 氏
「絵本でこどもたちに伝えたいこと」

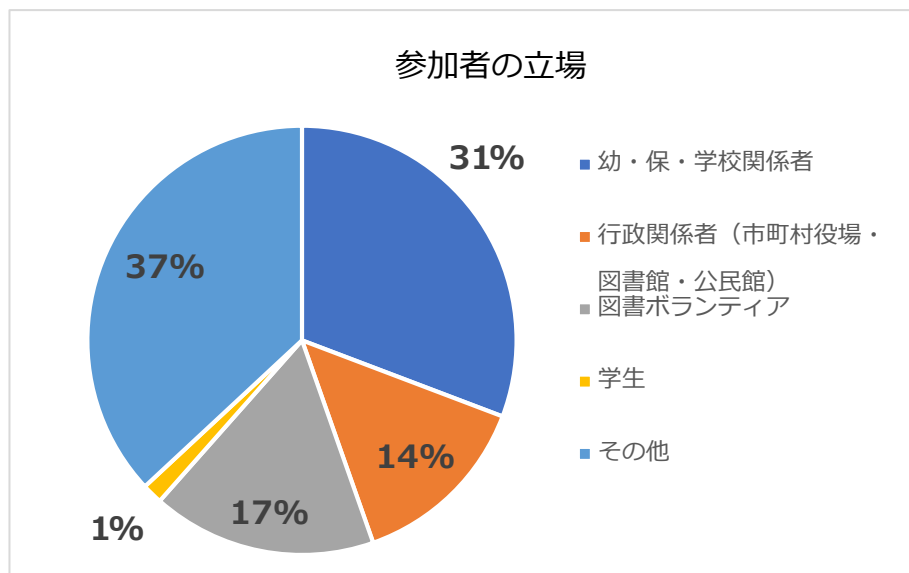
アトラクション 一般社団法人 **熊野新宮ミュージアム**

シンポジウム コーディネーター **辻本 雄一** 氏 (佐藤春天記念館 館長)
シンポジスト (50分間)
伊藤 松枝 氏 (郡野新宮町絵本の会「よむよむ」代表)
並河 哲次 氏 (「Youth Library えんがわ」留守番係)
山崎 泰 氏 (元新宮市立図書館司書)

読書は私たちの生活を豊かで
幸せなものにしてくれます。
子供から大人まで年齢に関
係なく、読書のおもしろさを味
わい、みんなで「ことば」の力につ
いて考えてみませんか?

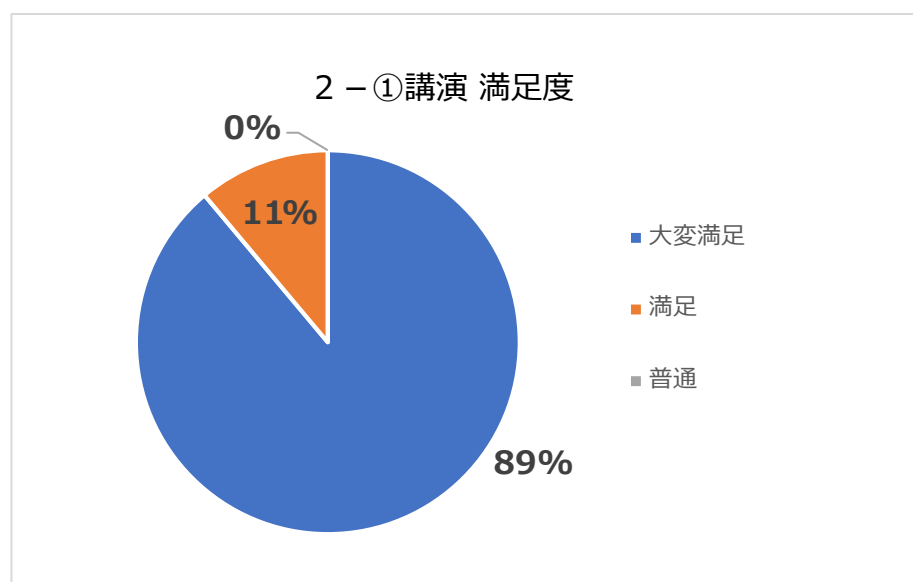



1 本日のフォーラムにはどのような立場で参加されましたか。



2 本日のフォーラムの感想をお聞かせください。

① 講演

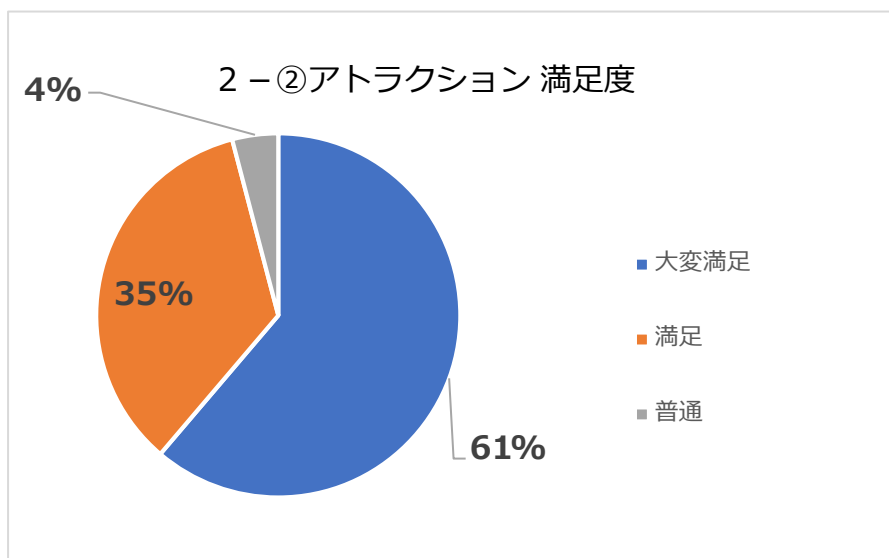


- 長谷川義史さんのユーモアな本を楽しく読んでくれたのが良かった。新宮に置き換えて創作してくれたのも素晴らしかった！
- 長谷川さんの人柄が出て、とても楽しい講演でした。選書もよく、家族や平和についても考える機会になりました。ありがとうございました
- とても楽しい講演でした。絵本を読まれる時も少し声のトーンを変えたりして、そのようにして子供たちに読むと集中して聞いてくれるような気がします。

- ライブ感がありませんがです。感動しました。
- はじめて、絵本ライブを拝見しました。大人になってから絵本を読んでもらうことはなかったので、とても新鮮でした。いろいろな読み聞かせの方法も勉強になりました。
- 長谷川先生のキャラがとても大好きです。何度聞いても優しさが感じられて優しい気持ちになります。
- あたたかでほっこりする長谷川先生ありがとうございました。美しい心が伝わりました。
- とても楽しく聞かせていただきました。型はいろいろあることにも気づかせてもらいました。
- 長谷川さんの空気感に癒されました。
- 本人に会えてとても嬉しい。平和を伝えていきたいです。
- 絵本の読み聞かせの事、色々なやり方があるんだと分かった。
- テンポの良い話し方と「読み聞かせ」は、やはり大人が聞いても心地良いものでした。
- メディアでは拝見する機会は多かったですが、やはり直に絵本に触れられた事は大変よかったです。遠いところありがとうございました。
- 絵本の魅力を改めて実感しました。とても楽しいひとときでした。これを子供たちに伝えていきたいと思えます。
- 普段のソフトな感じとは違い迫力があって、長谷川さんの熱い思いが伝わってきました。
- あっという間に楽しい時間が過ぎました。
涙が出るようなお母さんの絵本、赤ちゃんの絵本が良かったです。
- その場で物語を作っておもしろかった。
- 子供と大人を楽しくさせるお話が素晴らしかった。
- 本日はありがとうございました。長谷川義史さんの絵本を持っていたのでお会いできて嬉しかったです。感性豊かな講演で大変おもしろかったです。
- 保育士をしていて、普段は絵本の読み聞かせをする立場ですが、今日は子供たちの気持ちになって絵本を見ることができました。子供たちが本を好きになってくれるように保育士として関わっていければいいなと思えました。
- 長谷川先生のお話、とてもおもしろかったです。
- 以前に聞かせていただいたことがあり、新宮に来ていただけると知り、大変楽しみにしておりました。感動しました!!
- 手遊びを交えた読み聞かせ、大変おもしろかったです。
- 長谷川先生のお人柄が伝わってくるお話と読み聞かせとても楽しかったです。
「和歌山のうまいもん」子供と歌いたいです。
- 読み聞かせだけでなく、ライブ紙芝居まで聴くことができ、大人でもすごく楽しめて、あっという間に時間が過ぎました。子供(赤ちゃん)も一緒に聴かせてもらえたら嬉しかったなと思えました。
- 普段絵本を読む立場ですが、楽しく読んでいただけて私も楽しんで読み続けたいなと思えました。
- 読み聞かせ楽しかったです。長谷川先生の本をいろいろ読んでみたいと思えました。
- 長谷川さんの人間らしさが全面的に出てとても楽しかったです。
言葉を使ってするのはとてもいいですね。自分もやってみようかな。
- 長谷川さんのトークがおもしろかった。全体に勉強になりました。
- 作家先生ご本人に絵本の読み聞かせをしていただき、とても貴重でおもしろかったです。笑いから母への想いまで、感動しました。ありがとうございました。
- 長谷川先生のお人柄、お話とても良かったです。
- とても楽しい時間でした。ユーモラスな話題の中に心にジンとする場面もたくさんありました。
- お人柄がよく出ていて楽しいお話でした。人を喜ばせようという心をとて感じました。しかし子供相手ではこちらの気持ちに関係なく、子供たちが楽しめるかどうかというお話が印象的でした。
- 無邪気に笑えました!! 素敵な世界をありがとうございました。

- 大人も読み聞かせしてもらったら嬉しい！
- 作家本人が読んでくださったので、次回子供たちに読み聞かせをするときに参考にしたいと思った。
- 市民会館解体前の室井さんとの「しげちゃん一座」も拝見。新しいホールにも来ていただき嬉しい。新宮の人はシャイなので、あと1回は来て欲しい。とても楽しく、子供さん向けの絵本ライブも開いて欲しい。
- とても楽しかったです。期待していた以上の内容でした。
- 絵を描きながらお話しされたり、和歌山のうまいもんにジェスチャーをつけて歌ったり、絵本も本当におもしろく読んで下さいました。私の絵本パフォーマンスに役立てたいと思いました。
- 笑いの中にもあたたかさがあり、久々に文化に触れました。絵本っていいなあ。子供たちにたくさん読み聞かせしたいです。
- 長谷川さんの絵本作品のファンの1人です。本人様に読み聞かせしていただき、ますます絵本が好きになりました。本はおもしろい！本の魔法、読書の魅力に誘う素晴らしい内容でした。
- 長谷川義史さんの絵本が大好きで、ご本人から読んでいただけて絵本の世界をより楽しむことができました。心が温かくなりました。
- 大大満足でした。長谷川先生最高です。今回参加できて本当によかったです。絵本がますます好きになり、明日からの仕事につなげていけそうです。ありがとうございました。私も普段は読む方ですが、今日は絵本を読んでもらいすごくおもしろく笑いました。
- テレビでいつも楽しく見せていただいているのですが、今日はそれ以上に楽しく、こんな楽しい時間を持てたこと、心より嬉しく思います。ありがとうございました。
- とてもユニークなお話。朗読してくださった絵本は、どれも読み聞かせで披露させていただいたものですが、読み方を学びました。
- 生で絵を描くところがおもしろかったです。
- 長谷川さんの絵本ライブを聞くのは4回目でしたが、最後に深々とお辞儀をされて、本当に来られて嬉しかったんだなと思いました。呼んでくださってありがとうございました。
- 満足できない部分もありましたが、最後の方の講演で心の温かさや心のきれいな部分を感じさせられ涙して聞かせて頂きました。

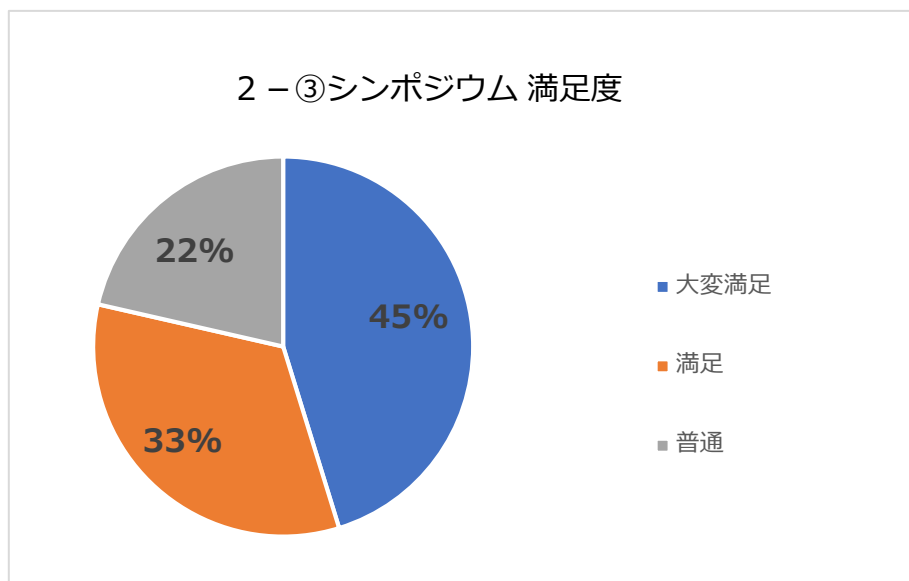
②アトラクション



- 東くめさんご夫婦の生涯を少しでも知れて良かった。歌い手さんはいつ聞いても綺麗な声です。
- 東くめと旦那さんが幼児教育の第一人者であることは知らなかったなので、勉強になりました。また、朗読も歌もピアノもとても上手でした。

- 東くめさんご夫婦の事がはっきり分かりました。
- 内容が勉強になり、朗読の仕方や歌声が心地よかったです。
- 語り、歌、ピアノ演奏、どれも素晴らしかったです。地元の方々が、こんな素晴らしい発信をしているんだと、感動しました。
- 今日のように過去の偉人について知るには、書籍よりも朗読「劇」という形の方が、楽しみやすいなと感じました。過去の写真を通して、その時代を知ることができて良かったです。
- はじめての朗読劇、カンゲキ！
- きれいな声に聞き入りました。
- よく分かりました。ステキでした。新宮からはたくさんの文化人が輩出されていますね。次を期待しています。
- 声が大変美しく上品なのに驚きました。
- お正月は知らなかったです。
- 東くめ、基吉夫妻に対して理解が深まった。
- 東くめ「鳩ぽっぽ」「お正月」子供たちに歌い継いでもらいたいものです。熊野新宮ミュージアムの朗読劇素晴らしかったです。ありがとうございました。
- 非常に勉強になりました。
- 東くめの生涯と唱歌の誕生について朗読でわかりやすく知ることができ、興味深かったです。
- 朗読を通して改めて東くめさんの生涯や作曲誕生秘話を知ることができよかったです。
- 初めて朗読劇を見たので、また機会があれば朗読劇を見たいと思いました。
- 東くめさんのことを知り「鳩ぽっぽ」「お正月」の歌が好きになった。歌も素晴らしかったです。
- 東くめさんがつくった「鳩ぽっぽ」「お正月」の歌すばらしいですね。新宮の誇りですね。
- 東くめさんについて大変わかりやすく伝えていただきました。朗読、歌、ピアノとても素晴らしかったです。新宮が生んだ偉人だと感じました。素晴らしい歌声でした！
- 歌がとても上手で、語りも聞き取りやすくとても良かったです。
- 素晴らしい朗読、歌唱でした。東くめさんのことを知れて良かったです。
- 「鳩ぽっぽ」や「お正月」の誕生秘話が知れて良かったです。幼稚園教育の第一人者の夫とくめさんが滝廉太郎と共に手がけていたとは。
- 東くめの物語を、新宮の人に聞いてもらう機会がたくさんありますように。
- 熊野新宮ミュージアムの方々の歌と演奏と朗読が素晴らしかったです。東くめさんの事についても知れて良かったです。
- 朗読劇も初めて見ましたが良かったです。
- 素晴らしい語りと歌、そして構成すべて良かったです。
- 東くめさんの名前は知っていても、詳細は知らず、素晴らしいアトラクションでした。歌も語りもピアノも素晴らしかったです。もっとたくさんの人、子供たちにも聞いてほしいと感じました。
- 丹鶴小学校に東くめさん直筆の色紙があり、「鳩ぽっぽ」の作品誕生のエピソード等知ることができました。熊野新宮ミュージアムの皆様のご活躍、今後も楽しみにしています。
- 地域の皆さんが東くめという郷里の偉人をとても大切に想い、伝えていく役目を果たされていることに頭が下がります。文化を守り伝えていくこと大事ですね。
- 朗読劇はじめて見ました。少し難しかったですが「鳩ぽっぽ」の秘話が知れて良かったです。「鳩ぽっぽ」の歌2曲子供たちに伝え続けていきます。今の読み聞かせにつながるなと思います。「お正月」の歌を聞き改めていい曲だと思いました。
- また違った素晴らしい時間でした。
- すばらしい朗読劇でした。
- 地元こんな人たちがいてすごいなと思いました。

③シンポジウム



- 本との関わり方について、それぞれの立場・目線からのご意見が聞けて勉強になりました。本との出会いをより大切にしていきたいと思いました。
- 読書に対して、個々の思いがあることを感じました。「えんがわ」の並河さんの話から、現在っ子の気持ち、生活なども垣間見えて良かった。
- 地域で様々な立場の方が、読書を支える活動をされていると知って、大変勇気づけられました。
- 三者三様それぞれの視点での話が聞けて1時間あっという間でした。
- 本やメディアとの付き合い方など色々と勉強になりました。
- 絵本を読む声の力がいかに大きいか、それを小さい時から大好きな人から読んでもらうのが大切かがよく理解できました。
- 「ことば」には力があります。話し言葉から、書物に記された言葉から、歌の歌詞から…たくさんの言葉から力をもらうことも多いです。読者を通してつなげることも、「ことばの力」かなと思います。3人のシンポジストの方々、コーディネーターの辻本館長様、ありがとうございました。
- 各々の立場のお話は良かったです。
- 三者三様のお話が聞けて面白かったです。山崎さんが20年郷土資料担当として活動されてきたお話はとても重みがあり、読書の楽しみもだけど20年研究され続けたことにも感心します。
- 4名の方の取組や、専門性からのつながりについて様々な意見が聞けて良かった。
- 高校時代、辻本先生の古典の授業がとてもおもしろかったです。懐かしく思い出しながら、素晴らしいコメンテーターの方々のお話をとても興味深く聴きました。ありがとうございました。
- それぞれの登壇者が準備してくださっていたので、それぞれ考え方が分かっておもしろかった。
- 言葉の暴力、嫌な思いをした時の発想の仕方、読書をする事で時代を超えた人達の考えを知る事で、より多様性を身につける事が出来る大切さを改めて同感しました。
- それぞれの立場でのお話が聞けて、大変参考になりました。
- 山崎先生の調べ学習についての見解は大変勉強になりました。ネット情報に頼りがちな今だからこそ図書館の重要性について考えていきたいと思いました。
- 様々な立場の方のお話を聞けて刺激になりました。
- 楽しく、広く、人間関係を築きたいです。
- 様々な方面で活動されている方々の話を聞けて面白かったです。新宮の歴史に興味が出ました。
- それぞれの視点からの話を聞くことができました。
- 勉強になりました。

- シンポジウムは難しい固いイメージですが、3人のいろいろな立場の方々の話が聞けたこと、図書館やブックスタートの裏側や意義などを知ることができ、良かったです。
- ネット情報は情報を得るための入り口。さらに詳しく調べるには書籍が必要なので、調べる体力をつけるためにも、幼い頃からの読書が大事だと思いました。
- 読書は著者との対話というのがとてもうなずけました。
- いろいろな立場のシンポジストの方のお話が聞いて興味深かったです。本を読めばその人に会える。私も本に出会えていることでたくさんの幸せをもらっています。
- 読書の形も時代とともに変わっていくものだと思いました。

3 和歌山県に読書文化をより一層根付かせるために、一番大切なことはどのようなことだとお考えですか。ご意見をお聞かせください。

- 学校や幼稚園の教室にいろんな本を置き、手に取れる環境をつくる。学校司書がブックトークなどを行い本の紹介をする機会を多くする。今日のような読み聞かせをする。那智勝浦町の新生児検査で本のプレゼントや読み聞かせをする事は、母子共に良い影響を及ぼすだろうと思います。
- 図書館に来ること自体足の踏む方が多く、なんとか図書館が気軽に来られる場所になるよう考えないと駄目だと思います。
- 図書館が身近な感じ。
- 動画やネットからの情報が溢れているものの、子供たちは読書が好きです。学校では、図書予算を増やしていただき、子供たちがもっと本に触れられるようになればと思います。新宮市立図書館が新しく素晴らしい施設になりましたので、蔵書を増やし、利用者に本の情報をもっと知らせてほしいと思います。
- 各市町村の図書館を充実させること。専門、専任、正規の司書を配置して、どんな小さな図書室にも常駐させる。学校司書との兼任をさせない。どちらも充実させるには学校司書の人数を増やす。「朝読書」の時間をつくれれば読まない子供はいなくなる。
- 人口が少ないこと、県外だけでなく、県内でも地域格差が大きいことなど、課題はたくさんあると思いますが、人が少なく、各地域が遠いからこそ、それぞれの地域に合った特色をのびしていきやすいとも感じています。また読書を根付かせるためには、場所や形態にこだわらず「日常に本がある」という環境を整えておくことが肝要だと、今日のフォーラムを通して分かりました。
- シンポジウムで新宮市立図書館の司書さんの話を聞けば、それを支える「人」がいることがまず大切だと感じました。（教育関係者なので）特に学校においては、図書館に関わる人員の永続的な確保だと思います。学校司書の正規職を増やしてください。特に、小・中の採用率がどのようなものなのかが気になります。小さな頃から読書に対する信頼を得ていれば、必要な時がくれば、一度読むことから離れていても、戻る時はあると思います。このフォーラムが、そういう特色化された各地域での取組を橋渡しする場になることを願っています。
- 子供たちや大人にも長谷川さんや他の作家の方達の読み聞かせを体験させてあげて欲しいです。年に一回でもいいですから。
- 私は串本町に在住ですが、田辺市にある Big-U のような施設が串本町～新宮市の間に 1 つあったらいいなと思っています。ゆっくりと座って本を読む明るいスペースがあればと思います。
- 分館でも良いので、地域に 1 つ図書館を、家庭環境にかかわらず、どの子もいつでも（電車やバスに乗らなくてもひとりでも行ける）本を手にとれる環境づくりが必要だと思います。
- 小さい子供たちに楽しく本との出会いをさせてあげることから、また始めたいと思います。
- 手元に本がある生活を望みます。

- まずは、私たち大人がペーパーであったり、生の声であったり…いろいろな方法で物語などに触れる機会を多く持つこと。その習慣が子育ての中で生かされていくと思います。
- 学校司書を1校1人配置。公共図書館の充実。
- 読書の時間を生活の一部にできるようにして欲しい。
- 学校で少しでも子供たちに本をと思っています。長谷川先生のお話を参考にします。
- 町の図書館の充実。環境整備。家庭の読書。
- 少人数で読書会などどうでしょうか？
- どの子にも本のおもしろさを！ 種まきをする人材育成。各家庭でも本を！ ブックスタートなどが大切だと思います。
- 図書館員の人員増強
- 子供が小さいうちから身近に本と触れ合える環境づくり。(図書館や本屋などの施設、読み聞かせなどのイベントなど)
- 子供の頃から絵本に触れられる、触れやすい環境づくり。
- 好きな本に出会う。楽しい読み聞かせ会。家庭で動画・ゲームづけの子供にも読み聞かせの時間があれば良いと思う。
- 幼い子供たちに本の楽しさを感じてもらえるように、すなわちお母さんたちに絵本の楽しさを分かってもらえる機会をたくさん作る事が一番大切だと思います。
- 教育現場で活字に対して慣れさせることですかね？
- 家で子供に読み聞かせをするだけの余裕のある暮らし、働き方。
- 今回のような講演を回数多く行って欲しいです。
- 学校教育、幼稚園教育の大切さは勿論、家庭での教育が一番大切かと思います。「テレビやスマホで子育て」という言葉が聞かれますが、とんでもないことです。子供たちに肉声で語りかけたり、絵本を読んであげたりしてほしいと切に願っています。
- 今は小さな頃から、ケータイ、テレビ、タブレットと動画が満ちているので、本、読書を一層根付かすのは難しそうだなと思います。しかしながら、絵本と接するのはやはり家庭が一番多いと思うので、ブックスタート、ファーストブックや健診ごとに提供するのはいいことと思います。絵本との出会いを作ることが大事だと思います。
- 子供たちの教育もそうですが、それには保育者や教育者の質を上げることだと思います。
- 本を読む時間を取る事。好きな人は勝手に読むが、機会がないとなかなか本には触れられない。
- 今日の絵本ライブも良かったが、作家の講演会も開催してほしい。作家に会えると読んでみる気になる。
- まず大人が読むこと(楽しそうに) →子供が興味を持つ。子供の近くに本を置く。
- 私は白浜町の小学校へ月2回程度、昔話をお話ししたり絵本を読んだりしに行っています。子供たちが感激して本や絵本が好きになるように、感動を与えられるように、日々練習に励んでいます。
- たくさん読み聞かせをすることが1番かと。読み聞かせをすると必ず子供たちはその本を手に取ります。お母さんたちも、自分が楽しみながら読み聞かせをしてもらえるといいのになあと感じます。
- まず大人が読むこと。これにつきますと思います。そしてその楽しさ面白さを子供たちに伝えていく。それが大人の役目だと思います。
- 絵本が好き面白いと感じることかな。子供大人関係なく楽しめるもの。
- まず幼年の頃より本に興味を持つこと。読み聞かせなど、いくつになっても知らないことなどに興味を持つこと。
- 読書というより、本に興味を持って、読んでも読まなくても手元に置くことが大事かな。
- 各家庭内で親も本を読む習慣をつけること。子供は親の背中を見て育つと思います。
- ①子供に読み聞かせの時間を(読み聞かせをする→自分で読みたいと思う)
②読み聞かせ(絵本を前で読む会 10人ぐらいおじさんとかおじいさんとかも前に出て)

- ①何かの機会に配る。②小学生の時に「読書感想文」のようなお堅いものだけでなく、ブックトークくらい、軽いことをしてみてもいい。
- 子供が小さい時から、家族で読書をするなど一緒に楽しむ雰囲気をつくる。図書館がない、もしくは遠い地域では、文庫活動や「まちかど図書館」をつくり支援する。希望する市町村で長谷川さんを招き、楽しいイベントを実施する。

4 その他、お気づきの点がございましたらお書きください。

- 今はコロナがあり人数制限ありますが、このようなお話をまたして欲しいですね!! しげちゃん一座も凄く良かったです。紀南の方にもっと遊びを入れた催しを!!!
- このような機会をつくっていただきありがとうございました。
- 久しぶりのライブありがとうございました。
- 読書の面白さを伝えていける大人になれるよう、自分自身もこれからも本と楽しく向き合っていけたらと改めて思いました。本日はありがとうございました。
- 有意義な会をありがとうございました。
- 絵本は子供だけの本ではない。大人も一緒に声出して読んでみよう。心が洗われる本の多いこと。ネットで簡単に調べられる世の中ですが、深い知識を得るには図書館の資料を調べる学習も必要。
- かつらぎ町の遠方から来たけど十分来て良かったと思った。
- 「読書」はインプットの時点では「自分 対 本」なので孤独です。他人に気軽に話して楽しむアウトプットがあれば、読書人口も増えるように思います。
- このあたりの地方では、こういった講演などの機会が少ない中、とても素晴らしい時間をありがとうございました。